

令和2年度第1回 宗像市健康づくり推進協議会議事録

日 時： 令和2年11月26日(木)
19時00分～20時10分
場 所：市役所北館2階 202会議室

出席委員：小川委員、伊東委員、栴田委員、九重委員、吉田委員、中谷委員、鋸委員、平尾委員、石松委員、福井委員、陣内委員、高木委員、今西委員
事務局：【健康福祉部】北原部長 【健康課】林田課長、西川参事、大森企画主査、柴田主任管理栄養士

(事務局) 宗像市健康づくり推進協議会規則第5条第2項により、現在、委員15人のうち13人参加で過半数を超えるので、会議は成立。新型コロナウイルス感染症対策のため、常時換気している。また、会議時間の短縮に協力をお願いしたい。

1. 開会あいさつ

(北原部長) 日頃の市健康づくり施策の推進へのそれぞれの立場からの支援、協力にお礼申し上げる。今回の委員の任期は令和2年11月1日から令和4年10月末までの2年間。今日は、健康むなかた21、健康むなかた食育プランの内容、取り組み状況等についての協議をお願いしたい。

(事務局：林田課長) 市の健康づくりの推進は、本協議会の委員の協力を得て、「健康むなかた21」という行動計画を策定し取り組んでいる。食育については、「健康むなかた食育プラン」という計画により進めている。両計画とも10年計画で、昨年度、中間年度の見直しを行ったので、新委員の任期の今後2年間は、主に取り組みの確認と、健康づくり、食育に対する意見を聞くことになる。また、平成30年度に策定した「宗像市自殺対策推進計画」についても意見をお伺いしたい。

2. 委嘱状交付

市長に代わって健康福祉部長より委嘱状交付(感染症対策のため机上へ事前配布)

3. 委員紹介

(着席順で自己紹介)

4. 職員紹介

(市職員自己紹介)

5. 会長・副会長選出

(事務局 林田課長) 宗像市健康づくり推進協議会規則第4条第2項の規定により、会長、副会長を委員の互選により選出することとなっている。立候補か推薦あれば。

⇒立候補、推薦ともなし。「事務局一任」の声あり

(事務局 林田課長) では、事務局から、会長を小川委員、副会長を栴田委員と提案したい。

⇒委員から異議なしの声あり

(事務局 林田課長) では、ここからは会長に進行をお願いする。

(小川会長) 会の運営がスムーズに行くよう、協力をお願いしたい。

6. 議事録署名人について

(小川会長) 議事録署名人を昨年度からの続きの名簿順で、高木委員、今西委員の2名でいいか。

⇒委員から異議なしの声あり

7. 報告事項

(小川会長) 報告事項3点について、事務局説明を

(1) 市健康づくり事業について 【資料3】

(事務局 西川参事) 資料3「むなかた健康ガイド」の市健康づくり事業の説明。健康ガイドは市民に健診を受けてもらえるように作成している。健診受診の勧めをお願いしたい。

(2) 第2次健康むなかた21及び第2次健康むなかた食育プラン中間見直し結果について 【資料4】 【資料5】 【資料6】

(事務局 大森) 市の健康づくりの基本計画である「第2次健康むなかた21」と市の食育推進計画である「第2次健康むなかた食育プラン」では資料6の図1、図2のとおり基本理念と施策の柱を定めて健康づくりと食育を推進する。

(資料4の中間評価結果をふまえた今後の取り組みについて、資料6を用いて説明)

(事務局 柴田) 資料5の中間評価結果をふまえた今後の取り組みについて、資料6を用いて説明

(3) 自殺対策推進計画令和元年度の実施状況について 【資料7】 【資料8】

(事務局 大森) 本計画は、2019年度から2024年度までの6年計画。資料7を用い計画の概要を説明。資料8を用い令和元年度の市各部署の取り組み状況説明。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、7月以降、全国的に自殺者数が増加傾向にある。宗像市は、ここ数年減少傾向にあり、今年も昨年と変わらない。

(小川会長) 以上の報告事項について、意見、質問あれば。

(委員) (2)の第2次健康むなかた21及び第2次健康むなかた食育プラン中間見直し結果に関して3点質問がある。まず、健診の受診率の目標が60%とあるが、これにはどんな健診が含まれるか知りたい。2点目は、目標値に「減少傾向」という表現が多いが、数値目標ではない意図は何か。3点目は、市で健康づくりのリーダーを養成していることは評価できるが、コミュニティから毎年違う人が選ばれているので、継続性を確保するためのフォロー体制が知りたい。

(事務局 西川参事) 1点目と3点目に答えたい。1点目の健診の受診率については、市としては個人情報保護などの点から、国保の被保険者の特定健診、がん検診数しか把握することができないので、実態として把握している数とは異なるが、市民アンケートの結果からはかなりの人が受診をしている様子。3点目の健康づくりリーダー養成とフォローアップ講座は、事業は例年行ってる。今年度はコロナの関係で開催を見合わせているが、コロナが終結した後には再開の予定。2点目は担当が説明する。

(事務局 柴田) 2点目の目標が数値ではなく、減少傾向という表記になっていることについては、

目標は数値目標であることが望ましいが、健康づくりや食育の推進を数値目標に基づいて行うという歴史が浅いため、数値の設定が難しいものについては、減少傾向、増加傾向などという方向を示す方法を用いることもある。今後数値の動向の把握が進めば、当然数値で示すことになると思う。

(委員) がん検診受診率の修正案のところ、市民アンケートとあるがどういったアンケートなのか知りたい

(事務局 西川参事) 市民対象の無作為抽出のアンケート

(委員) アンケートによる目標と、そうではない目標値に大きな開きがあるが、市民アンケートによる数値とは知らなかった。無作為抽出の調査ということは、かなり信頼性が高いということか。

(事務局 西川参事) 信頼性は高い。

(委員) 自殺に関しては、増加しているということが盛んに言われているが、宗像市では増加していないということが、皆様の日頃の賜物だと感じた。

(委員) 自殺数について、具体的な数字が公表できるのであれば教えて欲しい。初参加なので、状況が知りたい。また、スクリーニングの年齢の見直しについては、何歳から何歳への変更なのか。

(事務局 大森) 宗像市の5年間の平均値は、H27からH31年までの平均で15名、自殺対策推進計画の策定時は20名程度だったので、減少傾向である。スクリーニングについては、現在は64歳以下としているが、今後は74歳までに年齢を引き上げて実施する。

(委員) 食育プランの評価項目で、『宗像産の農水産物の使用頻度』とあるが、小学5年生、中学2年生それぞれ本人が回答した結果なのか。

(事務局 柴田) これは、市の小学校5年生、中学校2年生全員に対する調査で、本人が宗像産農水産物を食べているかという設問に答えた結果。

(委員) では、食べている実態ではなく、食べているという意識ということではないか。

(事務局 柴田) そのとおり。

(委員) 宗像産の物を食べているということであれば、それをどう意識させるのか、学ばせるのかにつながると思う

(事務局 柴田) 子どもたちに宗像産の農水産物について意識を持ってもらうことについては、栄養教諭である委員が実践されていると思うので、よければ取り組みの紹介をお願いしたい。

(委員) 宗像市は小中学校の給食を自校方式で提供しており、宗像産の食材を積極的に使用している。その際、各校の栄養教諭等が食育だよりなどで今月の給食の宗像産の食材について触れ、生産者のことも紹介、給食放送なども行っている。また、小学5年生で郷土料理について学んだり、低学年は地域の生産者の方と交流したりする授業があり、宗像産の食材に関心を持ってもらう機会がある。中学校でも同様に地域の食材について知らせよう心掛けている。

(委員) 今回のアンケートには給食は入っていないのか。家庭で宗像産を使っているかという設問だったのか。

(事務局 柴田) 「家庭で」という聞き方をした。

8. 協議事項

(小川会長) 協議事項 2 点について、事務局提案を。

(1) 令和元年度の健康づくり・食育の取組状況および今後の取り組みについて 【資料 9】

(事務局 柴田) 資料 9 に市関係部署の取り組み状況をまとめている。委員所属の各団体の取り組みについては、今後確認予定なので協力をお願いしたい。

(2) これからの健康づくり事業について 【資料 10】

(事務局 西川参事) さきほど、健康づくり事業の紹介をしたものについては来年度も継続する予定。今後の取り組みの主なもの 3 点について説明する。1 点目は新型コロナウイルス感染症の終結に向けた取り組みでこれを最優先する。ワクチン接種開始の可能性が高まっているので、準備して行く。2 点目は、一層の健康づくりのため、特定健診、がん検診をしっかりと受診してもらえるようアピールして行く。3 点目は、来年度から強化する事業として、健康づくりと介護予防の一体化に取り組む。将来介護保険を使わない、もしくは要介護状態が重症化しないよう、いつまでも健康で元気に過ごすための取り組みを進める。例えば先ほど紹介したような住民主体の取り組みや、通いの場や教室などの取り組みをしっかりと進めたい。その結果、医療費と介護保険にかかる費用の適正化につながっていけば幸い。

(小川会長) 1 点事前に質問が出ていたので、事務局説明を。

(事務局 林田課長) 委員から、ふくおか健康ポイントアプリについて、市では何か取り組んでいるかという質問を受けたので答えたい。ふくおか健康アプリ事業については、当日資料としてチラシを配布しているので、確認してほしい。市では、12 月 1 日号の広報紙に本事業についての記事を掲載予定し、市としてこのアプリ事業に参加する。これは県の事業だが、市として登録すると、市の健康情報やイベントのお知らせを市単独で発信することができる。また、来年度からは本格的に参入し、例えば各地区の歩こう会に参加すると健康ポイントがもらえ、ポイントを集めて市民限定のプレゼントが当たるなどの仕組みづくりを考えている。委員の皆様、お知り合いの皆様にも是非このアプリのダウンロードをお願いしたい。事業の詳細については、委員をお願いしたい。

(委員) ふくおか健康ポイントアプリ事業は、ふくおか健康づくり県民運動の一環で、今年の 2 月から運用開始したアプリ。県では登録目標を 10 万人としているが、現在までで 1 万 5 千人しか登録がない状況のため、県を上げて各所に働きかけている。保健福祉環境事務所においても、今年度から取り組んでいて、普及のチャンスである会議や研修会の開催が縮小していたが、最近少しずつ事業の開催ができるようになってきている。先日は、宗像ユリックスで開催された食中毒予防講習会で、食品関係業者の方を対象にアプリの紹介を行った。今日配布した資料は、健康づくりキャンペーンのお知らせで、12 月 31 日までにアプリ登録した人に抽選でプレゼントする企画。

このアプリの特徴は、毎日歩数がカウントできることで、現在は高齢の方もスマートフォンお持ちの方が多く、あらゆる世代の方に使っていただけたらと思う。歩数については、グループを作るとそのグループの中で歩数を競ったり、市町村内で上位 100 位までのランキングが表示されたりするので、自分の順位を確かめながら、日常的に生活の中で歩くこと活動することを進めていける。是非、皆様、ご家族や各団体の皆様にも勧めていただきたい。宗像市とともに取り組みを進めることで健康計画の中にもしっかりと根付くものと思う。

もう 1 点は、特典協力店の募集で、ポイントアプリのポイントでの特典、例えばワンドリンク無料などを提供できる協力店を募集している。飲食店、販売店、サービス業など様々な店舗に呼び掛け

ており、健康づくりを応援している店舗としてのイメージアップを図っていただくということで募集しているの、関係団体の皆様にもお知らせいただきたい。協力店募集については期間がないので、是非お願いしたい。

(小川会長) 協議事項 2 点と追加で事前質問に対する説明 1 点あったが、他にあれば。

⇒なし

9. 事務連絡

(小川会長) なければ事務連絡を。

(事務局 柴田) 協議事項で説明した健康づくり・食育の取り組み状況については、各団体に確認後、1 月頃委員に送付する予定。

10. その他

(小川会長) その他何かあれば発言を。なければ以上で進行を事務局に返す。

11. 閉会あいさつ

(事務局 林田課長)